平成 18 年度畜産の担い手確保推進対策事業

平成 18 年度

肉用牛の入門講座の概要

平成 18 年 3 月

㈳ 山口県畜産振興協会

山口県畜産振興課

目　　次

1　平成 18 年度肉用牛の入門講座開催要領　P1

2　平成 18 年度肉用牛の入門講座受講者名簿　P2

3　平成 18 年度肉用牛の入門講座の実施状況

(1)　肉用牛の基礎講座　P3

(2)　現地研修

ア　阿東町　N 牧場　P4

イ　岩国市　K牧場　P5

ウ　岩国市　S 牧場　P6

エ　萩　市　N 生産組合　P7

オ　周南市　Kファーム　P8

カ　下関市　T 牧場　P9

キ　長門市　M 牧場　P10

(3)　子牛市場視察･意見交換会　P11～12

(4)　先進地視察　P13

１.「肉用牛の入門講座」開催要領

1　開催目的

高齢化や後継者不足等により県内の肉用牛農家が減少する中で、肉用牛の生産基盤を維持･拡大していくためには一層の規模拡大を推進するとともに、新たな肉用牛農家の育成が大きな課題となっている。

このため、定年退職者や他産業従事者等を対象とした肉用牛経営を始めるに当っての初歩的な研修会を開催し、肉用牛飼養に必要な基礎知識は実際の肉用牛経営の内容を知る機会を提供し、新たな肉用牛農家の育成･確保に資する。

2　主催者

山口県及び㈳山口県畜産振興協会

3　受講対象者

原則として、県内において新たに肉用牛経営を始めようとする者

4　講　師

㈳山口県畜産振興協会職員、県職員及び研修受入農家等

5　開催方法

原則として、年間4回程度の研修会を開催し、肉用牛経営を開始する際に必要となる基礎知識等を修得するとともに、畜産農家における肉用牛飼養の体験学習や子牛市場視察等を行う。(1)開催時期　　原則として、1回目：8～9月、2･3回目：9～12月、4回目：1月

(2)開催場所　山口県畜産試験場及び畜産農家等

6　研修内容

(1)　講　義

肉用牛を飼養する際の基礎知識や県内における肉用牛経営の実態、経営開始に当っての支援措置等について研修する。

(2)　現地研修

肉用牛農家の視察や実際に肉用牛の飼養管理作業を体験学習する。

(3)　意見交換

将来の肉用牛経営設計や今後の対応等について意見交換を行う。

(4)　その他

受講者の要望等を踏まえ、必要と認められる場合には新たな研修項目を組み入れることができるものとする。

7　修了証の交付

所定の研修を修了した受講生には、修了証を交付するものとする。

8　受講者の募集

毎年度、広く受講生を募集するため、ホームページ･リーフレット等による広報や市町村･JA 等と連携した募集活動を行う。

2．平成18年度肉用牛の入門講座受講者名簿

市 町	氏　名
下 関 市	藤 井 信 幸
萩　　市	山 本　　博
周 南 市	徳 本　　勉
周 南 市	松 田 孝 行
秋 芳 町	中 村 貴 史
長 門 市	永 岡 泰 弘
長 門 市	長 谷 弘 行
長 門 市	平 尾　　保
山陽小野田市	梅 本 公 平
山 口 市	橘　　一 貴
山 口 市	神 徳 治 雄
周 南 市	橋 本　　公
下 関 市	蘭香　眞志雄
計	13名

(受講申込順)

3　平成 18 年度肉用牛の入門講座の実施状況

（1）　肉用牛の基礎講座

- 場所：山口県畜産試験場
- 日時：平成１８年９月２日（土）
- 参加者：８名。関係者１１名。
- 内容：

1. 基礎講座
   「肉用牛経営について」畜産振興協会 清水誠技術主任
   「肉用牛の基本的な飼養管理について」畜産試験場 川崎友子研究員
2. 種雄牛視察
3. 放牧管理グループでの哺育、子牛育成、育成牛、放牧牛、肥育牛の飼養管理
4. 牧場実習受入農家紹介
5. 質疑応答

基礎講座の様子

種雄牛からの精液採取説明

放牧管理グループでの研修

放牧管理グループでの研修

（2）現地牧場実習

ア ＜阿東町 N 牧場＞

- 日時：平成１８年１０月２１日（土）
- 参加者：４名。関係者２名。牧場主。
- 牧場概要：和牛繁殖１１頭と米の複合経営。JA 嘱託人工授精師。
- 内容：

１．牛飼養管理説明

２．除角実践

３．糞尿処理、イナワラ確保、繁殖管理、和牛改良、意見交換

繁殖管理説明

自動連動スタンチョン説明

除角作業

ロールベーラーの説明

４．参加者の感想

〇牛舎の工夫、機械化、独自の牛改良、スタンチョンに関心。

〇技術の高さを実感。牛も好き、牛を飼う人を育てるのも好きという言葉に感動

イ ＜岩国市 Ｋ牧場＞

- 日時：平成１８年１０月２８日（土）
- 参加者：２名。関係者２名。牧場２名。
- 牧場概要：和牛繁殖５頭と米の複合経営。
- 内容：

１．低コスト牛舎説明
２．子牛育成管理の説明
３．繁殖牛管理説明、意見交換

手作り牛舎説明

牛舎内説明

自給粗飼料

地域との連携について

４．参加者の感想

○ 自分の納得のいく牛を作る姿勢に関心。モミガラ利用が参考。
○ モミガラの使い方が参考。サイレージ用袋が参考。商品としての子牛管理を理解。

ウ ＜岩国市 S 牧場＞

- 日時：平成１８年１１月２５日（土）
- 参加者：３名。関係者２名。牧場関係者２名。
- 牧場概要：和牛繁殖 11 頭と米の複合経営。放牧活用。
- 内容：

１．放牧牛の牛舎誘導
２．繁殖牛営農基礎知識
３．子牛育成管理、意見交換、西山ファーム視察

概要説明	放牧牛の誘導
牛舎内説明	西山ファーム視察

４．参加者の感想

○ 良質牛保留の意味を理解。機械が利用しやすい牛舎構造を理解。子牛の下痢対策が参考。

○ 良質牛保留の意味と次の代まで待てるかどうかを理解。移動放牧を理解。

エ ＜萩市 N 生産組合＞

- 日時：平成１８年１１月２５日（土）
- 参加者：４名。関係者３名。牧場関係者２名。
- 牧場概要：和牛一貫（繁殖牛 126 頭。肥育 55 頭）法人経営
- 内容：

１．パイプハウス牛舎他施設機械説明
２．たい肥処理説明
３．繁殖牛への粗飼料給与実習、ロールベール給与
４．意見交換

低コストパイプ牛舎説明	肥育牛舎内自動給餌機説明
大型機械によるたい肥処理	ロールサイレージ給与実習

４．参加者の感想

○ 大規模経営の機械化が参考。牛管理を含め自己経営見直しを検討。
○ 一貫経営を目指しており参考。近代化経営が参考。
○ 環境に見合った工夫とマネージメントが参考。
○ 機械化により多頭飼育ができることを実感。

オ ＜周南市 K ファーム＞

- 日時：平成１８年１２月２日（土）
- 参加者：２名。関係者２名。牧場関係者３名。
- 牧場概要：養豚、和牛一貫（繁殖牛 62 頭。肥育 57 頭）法人経営
- 内容：

１．社長より会社概要説明
２．繁殖牛飼料給与実習、育成舎清掃
３．子牛へのミルク給与
４．意見交換

繁殖牛への粗飼料給与	カッターによる粗飼料裁断
哺育管理	早期離乳ゲージの清掃

４．参加者の感想

○ 肉用牛でも組織的な経営が可能であることを知る。繁殖牛の奥深さを理解。
○ 子牛の管理と牛舎構造は理にかなっており、役立つ。

カ ＜下関市 T 牧場＞

- 日時：平成１８年１２月２日（土）
- 参加者：４名。関係者２名。牧場関係者１名。
- 牧場概要：和牛繁殖 24 頭と米の複合。放牧、飼料稲活用。
- 内容：

１．飼料用稲ロール運搬
２．市場出荷前子牛のブラッシング
３．意見交換

飼料用稲ロールの積込み

ロールの積降し

ロールの中身確認

子牛のブラッシング

４．参加者の感想

○ 自分が目標としている規模に近く参考。一人で全ての作業を行っていることに関心。放牧を中心にすると労力削減になると感じる。
○ 肉用牛作業の一旦に触れ参考。稲作から牛の管理まで一人でこなしていることに感心。
○ 牛舎は手作りで低コスト。飼料稲を活用し、24 頭の牛を一人で効率的に飼育されていることが参考。

キ ＜長門市 M 牧場＞

- 日時：平成１８年１２月１６日（土）
- 参加者：９名。関係者３名。牧場関係者１名。
- 牧場概要：和牛繁殖 30 頭と米の複合。放牧活用。
- 内容：

１．スクモ袋詰、子牛牛房のボロ出し。
２．手作り牛舎内説明、子牛管理説明
３．電気牧柵設置説明、放牧地視察
４．意見交換

モミガラの袋詰め

子牛牛房のボロ出し

建築中牛舎説明

放牧牛舎説明

４．参加者の感想

○ 牛に対する愛情と観察、放牧の利点や牛舎の工夫が参考
○ 種雄牛の血統の見方が参考。
○ 牛舎の清潔さに感心。後継者が決まっていないのが気がかり。
○ よく牛を観察している。夫が人工授精師で意欲的。
○ 低コスト経営に感心。自分の目指す畜産に出会えた。放牧メリットも理解。

（３）子牛市場視察・意見交換会

- 日時：平成１９年１月２４日（水）
- 参加者：今年度受講者９名。昨年度受講者１名。特別参加４名。受入農家 1 名。関係者１４名。
- 内容：

１．山口中央家畜市場 子牛市場での流通視察
２．肉用牛飼養に係る支援制度説明（県畜産振興課　米屋主任）
３．牧場実習の概要報告
４．意見交換（山口農林事務所畜産部会議室）

＜主な意見＞

○ 2 期生

- 酪農家から交雑ヌレ子を購入し育て、22 万円で売れた。その後、妊娠牛を 2 頭購入したが、1 頭は死産、もう 1 頭の発育も良くない。管理について勉強中。現在 4 頭飼養。

○ 3 期生

- 昨年畜産試験場の牛をレンタルし、耕作放棄地へ放牧した。山間部に家を建て、2ha の山（昨年伐採）を利用したい。林間放牧の事例も見たい。
- 肉用牛法人で働いているが将来独立して和牛経営を考えている。個人では畜産農家には行かれないので、この講座は有益。
- 昨年 3 月に会社を辞め、現在６頭の和牛飼養。3 年後に 20 頭規模にし、所得も上げたい。放牧活用や関係機関、受入れ農家を知れたことは有意義。
- 10ha 程度の水稲で、ヤギは飼っている。美味しい米ができない所に移動放牧ができたらと計画している。
- 山口の山間部で農業をやりたい。牛との複合経営を考えている。

○ 関係者

- 過去参加者も含め、牛を飼う最後の決断は自分であることを再確認してほしい。儲かるかどうかの保証は出来ない。農林事務所は技術的支援や地域連携など相談して欲しい。視察も可能。
- 岡山県でも畜産農家減少は深刻。金の卵を産むきっかけを作る事業は大事であり、事業化を計画。

子牛繋留所の説明

セリの視察

セリの視察

意見交換会の様子

意見交換会の様子

修了証の交付

（４）先進地視察　（防府市　ふるさと牧場）

- 日時：平成１９年３月４日（日）
- 参加者：参加者４名。関係機関 1 名。牧場主。
- 牧場概要：和牛繁殖 9 頭。水稲 1.3ha、山林 30ha。林間放牧。ふれあい体験実践。
- 内容：

１．分娩牛舎説明
２．放牧牛舎と林間放牧説明。棚田への放牧、林地への放牧の注意点など説明。
３．意見交換

 分娩牛舎と子牛育成牛舎説明	 棚田放牧説明
 植林地への放牧説明	 森林管理と放牧について説明

コメント；棚田と山林に和牛放牧を組み合わせた複合経営実践者であるが、元は公務員であり、試行錯誤しながら現在の体系を確立。設備投資を極力抑え、里山放牧を活かした米、林業との複合経営により農村でも十分生活できる等、放牧実践に必要な気構え等を熱心に意見交換。